

ステファン・ポップ
(テノール)

森 麻季
(ソプラノ)
©Yuji Hori

ついに実現 パヴァロッティの再来

ステファン・ポップ

ゲストソプラノ：森 麻季

ヴェルディ：歌劇『運命の力』序曲

G.Verdi: Sinfonia from La forza del destino

ヴェルディ：歌劇『リゴレット』より「女心の歌」

G.Verdi: "La donna è mobile" from Rigoletto

プッチーニ：歌劇『蝶々夫人』より愛の二重唱「可愛がってくださいね」

G.Puccini: "Vogliatemi bene" from Madama Butterfly

プッチーニ：歌劇『蝶々夫人』より間奏曲

G.Puccini: Intermezzo from Madama Butterfly

ヴェルディ：歌劇『仮面舞踏会』より「永遠に君を失えば」

G.Verdi: "Forse la soglia attinse" from Un ballo in maschera

マスカーニ：歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』より間奏曲

P.Mascagni: Intermezzo from Cavalleria Rusticana

プッチーニ：歌劇『ラ・ボエーム』より「冷たい手を」

「私の名はミミ」

「愛らしい乙女よ」

G.Puccini: "Che gelida manina" - "Sì, Mi chiamano Mimì" -

"O soave fanciulla" from La Bohème

ロッシーニ：踊り(歌曲『音楽の夜会』より)

G.Rossini: La Danza

ロッシーニ：歌劇『セビリアの理髪師』より序曲

G.Rossini: Sinfonia from Il barbiere di Siviglia

レオンカヴァッロ：マッティナータ(朝の歌)

R.Leoncavallo: Mattinata

カルディッロ：カタリ・カタリ(つれない心)

S.Cardillo: Core'ngrato (Catari, Catari)

クルティス：帰れソレントへ

E.De Curtis: Torna a Surriento

プッチーニ：歌劇『トゥーランドット』より

「お聞きください王子様」

G.Puccini: "Signore, ascolta!" from Turandot

プッチーニ：歌劇『トゥーランドット』より

「誰も寝てはならぬ」

G.Puccini: "Nessun dorma" from Turandot

※都合により、出演者・曲目が変更となる場合がございます。ご了承ください。

出演：ステファン・ポップ(テノール) 森 麻季(ソプラノ) 渡邊一正(指揮) 東京フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)

4.18 2024
THU

19:00開演(18:15開場) サントリーホール 大ホール

S 19,000円 / A 15,000円 / B 11,000円 / P 7,000円(税込) ※未就学児童の入場不可。

主催：MIYAZAWA & Co. 協力：東京・春・音楽祭実行委員会

欧州で争奪戦の 売れっ子テノールを味わい尽くす またとないチャンス

香原斗志(オペラ評論家)

近年、ヨーロッパの歌劇場がもっとも頼りにするテノールの一人だが、オファーが殺到し、スケジュールを押さえるのは至難だという。ルーマニア生まれのステファン・ポップ。ストレスなく湧き上がり、劇場の空気をつんざいて客席に届くその声は、浴びるとなにより心地よい。簡潔で流麗なフレージングは常に張りつめている。それを緩急自在に操り、曲の魅力を細く漏らさず引き出す。ヨーロッパでたびたびポップの歌を聴いたが、裏切られたことがない。

そんなポップが、イタリア・オペラのナンバーを中心に据えたコンサートを行う。

ポップの歌には不世出のテノール、パヴァロッティを思わせるところがある。体形や動作、顔の雰囲気まで似ており、そのせいもあってか、歌唱も共通するところがある。ポップに「パヴァロッティみたいだ」と伝えると、いつも無邪気に笑う。ポップもまたパヴァロッティのように天与の才能に恵まれ、十代

半ばで先生に「オペラを勉強すれば第二のパヴァロッティになれる」といわれたという。

ルーマニア北西部クルジュ＝ナポカの音楽学校に入學後、すぐ頭角を表すと、「2年後にオペラデビューし、続いて、ローマ歌劇場の《椿姫》で国際デビューして大成功。2010年にはブラジド・ドミンゴ主宰のコンクール『オペラリア』で優勝し、聴衆賞ももらいました」とポップは語る。

圧巻の歌を聴かせ、性格も豪放だから勘違いしがちだが、音楽への向き合い方は真摯である。2023年にヴェルディ《ドン・カルロ》にデビューしたが、2018年にはこの役のオファーを断っていた。テクニックを磨き、声が熟すのを待って歌ったのだ。野球の投手の肩と同じで歌手の声も無理をすれば壊れる。それを避け、常に万全の状態で「登板」する賢さがポップにはある。

その賢さは緻密な表現にもつながる。力強い声は細部の表現まで磨かれているから圧巻なのである。2023年3月、ボローニャ歌劇場でベッリーニ《ノルマ》のポリオーネを歌うのを聴いたが、甘く、やわらかく、ピアノシモにはビロードの手触りがあった。それでいて要所はこのうななく力強い。聴き手はノックアウトされるしかない。

ポップこそは天与の才能を最高に磨き上げた、いまが旬のテノール。余裕をもって伸びやかに歌われる〈誰も寝てはならぬ〉1曲だけでも、聴き手は胸を揺さぶられるだろう。



ステファン・ポップ

Stefan Pop, Tenor

ルーマニアのトリツァ生まれ。クルジュ＝ナポカのゲオルゲ・ディマ音楽アカデミーを卒業後、ハリクレア・ダルクレイ国際音楽コンクールやソウル国際音楽コンクールで優勝。国際的に引く手あまたのテノールの一人で、ベルカントからヴェルディやプッチーニまで、特にイタリアのレパートリーを得意としている。世界の主要な歌劇場で歌っており、そのなかにはベルリン国立歌劇場、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウス、バリ・オペラ座、ハンブルク州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリッヒ歌劇場、マドリードのテアトロ・レアル、フランクフルト歌劇場、テルアビブの新イスラエル・オペラなどがある。これまでに共演した指揮者は、ズービン・メータ、ファビオ・ルイーゼ、ダニエレ・ルスティオーニ、ダニエレ・ガッティ、ミケーレ・マリOTTI、ネルロ・サンティなどいる。昨シーズンの

主な出演は、ロンドンで《トスカ》カヴァラドッシ、リージュでアンジェラ・ゲオルギューとの共演により《ラ・ボエーム》ロドルフォほか、タオルミーナでブラジド・ドミンゴ指揮により《リゴレット》マントヴァ公爵、ウィーン国立歌劇場での《ラ・ボエーム》ロドルフォもあった。2023/24年シーズンは、ベルリン国立歌劇場の《ドン・カルロ》から始まり、《蝶々夫人》ピンカートンで再びベルリンに登場するほか、コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスでは《リゴレット》マントヴァ公爵と《ラ・ボエーム》ロドルフォ、バイエルン国立歌劇場には《マクベス》マクダフに招かれている。2015年からは故郷ピストリツァの名誉市民、2019年には「オスカー・デッラ・リリカ・ヤング・ジェネレーション」を受賞している。



森 麻季

Maki Mori, Soprano

東京藝術大学、同大学院独唱専攻、文化庁オペラ研修所修了。ミラノとミュンヘンに留学し、P.ドミンゴ世界オペラコンクール「オペラリア」等多数の国内外のコンクールに上位入賞を果たす。ワシントン・ナショナル・オペラ《後宮からの逃走》でアメリカ・デビュー。その後、ルイーゼ指揮ドレスデン国立歌劇場《ばらの騎士》、エディンバラ音楽祭《リナルド》、ノセダ指揮トリノ王立歌劇場《ラ・ボエーム》に出演し、国際的な評価を得る。2015年兵庫県立芸術文化センターオペラ《椿姫》でタイトルロールを好演。鈴木優人指揮、バッハ・コレギウム・ジャパンと共演した歌劇《ボッペアの戴冠》(2017)、歌劇《リナルド》(2020)、歌劇《ジュリオ・チェーザレ》(2023)は各紙で絶賛された。2022年《椿姫》Bunkamuraシアター・オペラ・コンチェルトンテでヴィオレッタを熱演し喝采を浴びる。2023年BBCプロムスにデビュー。コンサートではアッシュケナージ、小澤征爾等の著名指揮者や国内外の主要オーケストラと共演し成功を収める。2022年より国立音楽大学客員教授。安宅賞、ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。



渡邊 一正

Kazumasa Watanabe, Conductor

1991年東京フィルハーモニー交響楽団を指揮してデビュー。2015年4月から東京フィルのレジデント・コンダクターおよび指揮者を2021年5月まで務める。また1995年～2002年には広島交響楽団正指揮者も歴任。これまでN響の定期演奏会を始め、日本国内の主要プロ・オーケストラへ定期的に客演しその音楽性と指揮に対する信任を得ている。オペラでは新国立劇場でマスカーニ歌劇《友人フリッツ》、バレエでも同劇場バレエ団《白鳥の湖》「くるみ割り人形」「ドン・キホーテ」などを指揮し、2006年「白鳥の湖」新演出の指揮でも大成功を収めた。またサンクトペテルブルグ交響楽団の定期演奏会に客演するなど、海外でも活躍している。ピアニストとしても8歳の時に東京響、東京フィルと協演。87年～89年まで渡欧しハンス・ライグラー教授に師事。その後、東京フィル定期、広島響定期などで弾き振りを含むプログラムを行なうなど、ピアニストとしての才能も高く評価されている。



©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団
Tokyo Philharmonic Orchestra

1911年創立。日本で最も長い歴史をもち、メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・パッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニエフ。定期演奏会や「午後のコンサート」、オペラ・バレエ演奏、NHK他における放送演奏の他、各地での訪問コンサートや海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年には『情熱大陸』『BS1スペシャル』などのドキュメンタリー番組や国民的番組「NHK紅白歌合戦」にも登場。1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を締結。文京区、千葉市、軽井沢町、長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的・創造的な文化交流を行っている。

チケット発売 | 一般:2023年12月9日(土)10:00～

◇サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 (10:00～18:00 休館日を除く)
<http://suntory.jp/HALL/>

◇チケットぴあ <https://pia.jp/> (Pコード256-826)
セブンイレブンにて取り扱い

◇ローソンチケット <https://l-tike.com/> (Lコード34742)
店頭販売 ローソン、ミニストップ店内Loppiにて取り扱い

◇イープラス <https://eplus.jp/>
ファミリーマート店舗にて取り扱い

【公演内容お問合せ】 MIYAZAWA & Co. info@miy-com.co.jp

【チケットお問合せ】 サンライズプロモーション東京 0570-00-3337 (平日12:00～15:00)
※チケットの取扱はございません

ステファン・ポップ 東京・春・音楽祭2024 出演公演

プッチーニ《ラ・ボエーム》(演奏会形式/字幕付)

【日時】2024年4月11日(木)18:30開演 4月14日(日)14:00開演

【会場】東京文化会館 大ホール

【出演】指揮:ピエール・ジョルジョ・モランディ/ロドルフォ(テノール):ステファン・ポップ
ミミ(ソプラノ):セレーネ・ザネッティ/マルチェッロ(バリトン):マルコ・カリ
ムゼッタ(ソプラノ):マリアム・パティステリ/管弦楽:東京交響楽団 他
【お問合せ】東京・春・音楽祭サポートデスク 050-3496-0202